

個の成長を促す教育的支援の在り方 2

－ コミュニケーション能力を高める支援の在り方 －

唐津市立伊岐佐小学校 教諭 緒方 理恵

白石町立白石小学校 教諭 原田 智子

1 研究の趣旨

不登校や問題行動を起こす児童，発達に偏りのある児童は，様々な困り感を抱えながら生活している。特に，友達とのトラブルが多く，集団行動がうまくとれないことなどは，本人にとっても周囲の人にとっても深刻な問題である。これらの原因の一つとして，児童のコミュニケーション能力が育っていないことが考えられる。

本グループでは，コミュニケーション能力を，社会心理学的視点から，「人とよりよくかかわる力」と捉える。人とよりよくかかわるためには，安心感や心のエネルギーが必要となってくる。これらを高めるために，コミュニケーション能力を支えるものを育てていくことが大切であると考えます。

そこで，コミュニケーション能力を支える基盤となるものを明らかにし，その基盤にアプローチするための教師のよりよいかわりについて探った。適切なアプローチをすることで基盤が育ち，コミュニケーション能力が高まることが期待される。そして，その結果，児童の困り感が緩和され個の成長を促すことにつながると考える。

以上のことから，本グループでは，「コミュニケーション能力を高める支援の在り方」というサブテーマを設定して「個の成長を促す教育的支援の在り方」の研究を行った。

2 研究教科・領域等

教育相談，特別支援教育において，研究課題の解決に向けて研究を行った。

3 研究の成果

(1) コミュニケーション能力の基盤となるもの

コミュニケーション能力の基盤として明らかにしたのは，「自己肯定感，自己効力感，自己有用感，自己理解・自己受容，他者理解・他者受容，自己表出，人への信頼，人間関係の耐性」の8つであり，よりよいコミュニケーションの姿には，児童の心の状態が大きく影響することを再確認することができた。基盤を探るために，まず文献を通してコミュニケーション能力や教育相談に関する研究を行い，人とよりよくかかわるために大切なことについて考えた。次に，人とよりよくかかわっている児童の姿について，自分たちの経験を基に考えたり，センター所員にアンケートを実施したりした。そして，文献研究で明らかになったことや自分たちの考え，アンケートの結果を，KJ法を活用して整理し，どの方法で導き出したものにも共通するものを8つの基盤とした。

基盤を探り明らかにする過程で，大切にすることは，児童の非言語的表現を感じ取ることが重要であることなど，教育相談スキルアップ研修で学んだことである。

(2) コミュニケーション能力を育てる教師のかかわり

スキルアップ研修において，「芸術療法，交流分析，ミニ試行カウンセリング」など様々な心理技法を学んだ。これらの研修を通して，コミュニケーション能力の基盤を育てるための教師のかかわりとして，次の2点を重視した。

ア 教師の感性を磨くこと

心理技法は、児童の的確で多面的な理解に活用できるというメリットがあるが、そのためには、教師自身の感性が重要となってくる。つまり、本人自身が実際に体験し、そのときの感情や心の動きなどを理解しておくことが必要がある。これは、その技法を知識としてだけでなく感情レベルで理解することで、内面的な思いや感じなどが、本人にとっていかに大切なものであるかに気付くことができるからである。そして、そのことは、児童が言語的、非言語的に発している多様な表現を「共感」し「受容」することにつながり、教師自身が、自分の偽りのない感情で相手に受け止めたことを返していく「自己一致」にもつながっていくと考える。このような教師のかかわりの中で、児童は「安心感」をもち、「心のエネルギー」も高まっていくと考える。

イ 教師の心理技法の技術を磨くこと

心理技法は、コミュニケーション能力の基盤を育てるための有効な手立ての一つである。実際に児童に対して効果的に心理技法を行うためには、「心理技法に関する確かな教師の技術」が必要となってくる。その背景にある理論やねらい、取り組む際の留意点について習熟しておくなど、教師の技術を磨くことが重要となる。

(3) コミュニケーション能力の育ち

児童のコミュニケーション能力の育ちについて、コミュニケーション能力の基盤となるものと、それを育てていくための教師のかかわりとの関係を木に例え、図1にまとめた。木の根にあたる部分に、コミュニケーション能力を支える8つの基盤があり、それらが互いに関連し機能し合うものとする。その基盤に対して、「受容」「共感」「教師の自己一致」「心理技法に関する確かな技術」などのよりよい教師のかかわりがなされことによって、児童の「安心感」や「心のエネルギー」が高まり、児童のよりよく人とかわる力が育っていくという関係性を明らかにした。

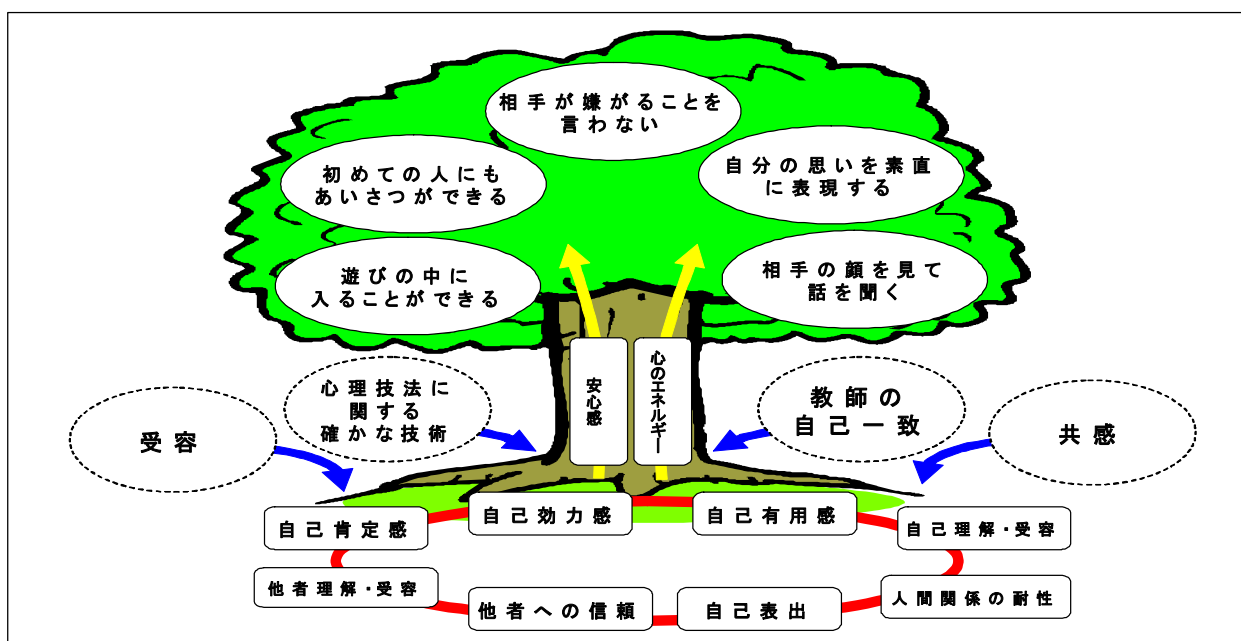


図1 コミュニケーション能力を支える8つの基盤と教師のかかわり

4 今後の課題

- (1) コミュニケーション能力の基盤を育てるための教師のかかわりとして、具体的にどんな手だてでアプローチしていくことが効果的であるのかを、明らかにしていく必要がある。
- (2) 児童に様々な心理技法を効果的に行っていくためには、学校内における教師の教育相談スキルに関する研修や共通理解などの環境整備面も探っていく必要があると考える。